

第 4 部

面 接 資 料

職業訓練指導員について

1. 合否判定に関するもの

- (1) 合格基準点が甘いから全員合格する。
- (2) 中高年には特に水準点を格下げしているので職業適性が極端に悪い場合をのぞいて大部分が受け入れられている。
- (3) 高卒者は学校で進路指導として適性検査を実施しているため、ほとんどの応募者は基準点を上回り全員合格するので意味がない。
- (4) 適性検査の結果値を合否の判定要素に加えないほうがよい。
- (5) 定員に満たない科目では特別の欠点がない場合は合格させているので適性検査は無意味である。
- (6) 中高年の評価基準が低いので改めるべきである。
- (7) 選考は競争だから成績のいいものから優先すべきだ。

2. 適性検査の評価に関するもの

- (1) 適性検査の評価を入校の選抜の手法として使うことは合理的である。
- (2) 適性検査の全項目を実施すべきだ。
- (3) 中高年の志願者は選考時より相当さかのぼった時期に実施してデータをストックするのがよい。
- (4) 適性検査の採点を簡便にせよ。
- (5) 適性検査に合わせて面接を行うことで潜在能力を発見することが可能である。
- (6) 適性検査実施の環境の一定化をはかり、入校志願者の構えを安定させることが必要である。
- (7) 適性検査の実施項目が少くない。あれだけで十分なのか。
- (8) 適性検査を選別に使われているが疑問である。
- (9) 適性検査は配置に使うべきだ。

職業相談担当者について

- (1) 就職率が高率の訓練科目には必ず希望者が集まる。本人の希望が強い場合は止む得ず適性を2義的に考えざるを得ない。
- (2) 現実に適性検査の結果だけで求職者に職種選択の指導をするのはきわめて困難である。

- (3) 適性検査の結果が悪くなく、本人がある訓練職種を希望すれば職種指示をしてはいるが、訓練の可能性については校でさらに判断を加えてほしい。
- (4) 本人が希望する訓練職種は就職率が高いものか、本人が興味や価値があると思っているものである。
本人の意思を優先して指導している。
- (5) 適性検査で不適格の場合は、はっきり言えるが、普通の評価の場合は相手に言い切ることは困難である。

訓練生について

1. 適性検査に関するもの

- (1) 適性検査は入校手続上必要なものと思う。
- (2) 面倒な思いをして書かせられたが、どの頁も全部はできなかつたので気がかりだ。
- (3) まわりの人が気になって、うまく答が書けなかつた。
- (4) また負けるかと思ってイヤだった。
- (5) あの結果を知らせてほしい。私は向いていますか。
- (6) 入校ができたのだから向いていると思う。
- (7) 学校の進路指導のとき練習したので、いい点をとれていると思う。
- (8) 自分では何に向いているかわからないが、この科に入った。向いていますか。
- (9) この職種ならやれそうです。
- (10) この職種の仕事を身につけたい。

2. 訓練校、入校理由

- (1) 訓練校は周囲の人達(親、親類、友人、先輩)から知った。
- (2) 授業料が無料で教えてくれるので応募した。
- (3) 中高年は職がないので就職率の高い、この科を選んだ。
- (4) 安定所の人にすすめられたので応募した。
- (5) 訓練校をできれば職はなんとかなるといわれたのでこの科に応募した。
- (6) すきだから、この科を選んだ。
- (7) 手先が器用だと思うし、頭を使うのは不得手なのでこの職種を選んだ。
- (8) 私も年だから何かできるはず、何かできるか教えてほしい。
- (9) 経済的に安定しそうだから、この職種を選んだ。